日本共産党
各務原市議団

市長交際費
一晩に3カ所の会食ならいい？

住民にとっては市長がどのようなものに対して交際費を支出しているか、関心が持たれています。

交際費は、地方公共団体の長が、行政執行のために必要な外部との交渉上、要する経費である言われています。

各務原市は市長交際費は、その目的を市長が市を代表して行う外部の個人又は団体との交際に必要な経費の支出に係る情報の透明性を高め、市政に対する市民の理解と信頼を深めてもらうため、必要な事項を定めるとしています。

市長交際費は市ウエブサイトで公表しています。今回問題としているのは、1日に複数の懇親会等に会費を支出している点です。29年1月は、12日は3カ所に、13日は5カ所、16日は2カ所、17日は3カ所、18日は3カ所と1月だけで28カ所、14万2，800円を会費として支出しています。一晩に5カ所の懇親会に行こうとすれば、顔を出して挨拶だけして次へとならざるをえません。そして一晩に5カ所で会食等を行っているとすれば不可能です。それどころか行くこともできず、会費だけ払うというケースもありうるのではないかと思われます。

ハタノこうめ議員は、一晩に5か所に行って会費を払うということが、社会通念上　通用するといえるのかどうか問われる問題であり、税金を使った寄付行為ととられかねないと、市の見解を求めました。

市は、同一日に4件以上参加した事実はない、会食ができないときは辞退し会費は支払っていないと答弁しました。

一晩に3カ所は参加しています。これは社会通念上認められることでしょうか。

みなさんはどのように考えられるでしょうか。

ご意見をお聞かせください。

３月２７日～３１日までニューヨークの国連本部で開催された「核兵器全面廃絶につながる、核兵器を禁止する法的拘束力のある協定について交渉する国連会議」に、日本共産党は、志位和夫委員長を団長とする代表団を送り、「核兵器のない世界への扉を開く」ため全力で奮闘。世界唯一の被爆国・日本の声を世界に届け、歴史的・画期的会議の成功に貢献しました。

党代表団は志位団長をはじめ、緒方副委員長、笠井政策委員長ら６氏。

日本共産党代表団は、「国連会議」に、「核軍縮・不拡散議員連盟（ＰＮＮＤ）」の一員として公式に参加し、「要請文」の提出、「文書発言」、演説を行うとともに、「国連会議」主催者、参加した各国政府・ＮＧＯなどと個別に懇談・要請の活動を行いました。

日本政府が「国連会議」への不参加を決めるもとで、日本共産党の活動は、日本被団協、日本原水協などの活動とともに、被爆国日本の国民の声を国連に届ける意義をもつものとなりました。

「核兵器禁止条約の国連会議」に参加された笠井亮衆議院議員がお話をします。是非お出かけください。

水脈 読者版
水脈読者版　第１４５号
2017年4月27日発行／日本共産党各務原市議ハタノこうめ、ながやてる子
各務原市川島小網町2144-55　TEL 0586-89-3924　携帯090-9947-4988